第12章　特殊仕訳帳

12－１　仕訳帳の分割

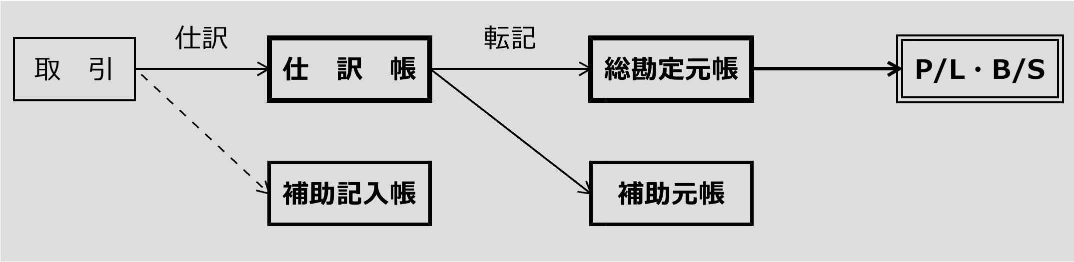
【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

どうして特殊仕訳帳制が必要になるか理解しよう！

（１）単一仕訳帳制

すべての取引を１つの仕訳帳に記載する帳簿組織を**単一仕訳帳制**といいます。



仕訳帳と総勘定元帳は損益計算書と貸借対照表を作成するために、必ず必要な帳簿ですので**主要簿**（しゆようぼ）といわれます。

必要に応じて主要簿である仕訳帳と総勘定元帳以外に、特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**（ほじよぼ）を使用します。

補助簿は特定の取引の明細を記録する**補助記入帳**（ほじよきにゆうちよう）と特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する**補助元帳**（ほじよもとちよう）に分けられます。例えば、以下のものがあります。

・補助記入帳 … 現金出納帳（げんきんすいとうちよう）、小口現金出納帳（こぐちげんきんすいとうちよう）、当座預金出納帳（とうざよきんすいとうちよう）、売上帳（うりあげちよう）、仕入帳（しいれちよう）、受取手形記入帳（うけとりてがたきにゆうちよう）、支払手形記入帳（しはらいてがたきにゆうちよう）

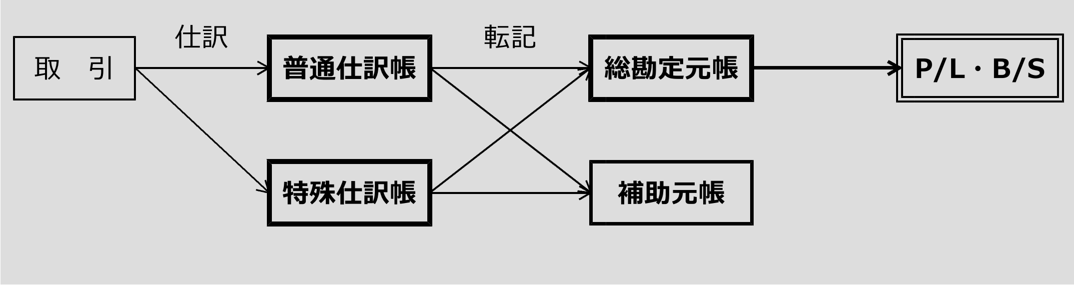
・補助元帳　… 売掛金元帳（うりかけきんもとちよう）、買掛金元帳（かいかけきんもとちよう）、商品有高帳（しようひんありだかちよう）

現金取引、当座預金取引、売上取引、仕入取引等のある特定の取引について、補助記入帳を作成しますが、仕訳帳にも補助記入帳にも記入するため、記入に手数がかかるという欠点があります。

（２）特殊仕訳帳制（とくしゅしわけちょうせい）

単一仕訳帳制では同じ取引を２つの帳簿に記入するため、記入に手数がかかるという欠点があります。そこで、補助記入帳を仕訳帳として利用することで、その欠点を補った帳簿組織が**特殊仕訳帳制**です。

仕訳帳になった補助記入帳を「**特殊仕訳帳**」といい、従来の仕訳帳を「**普通仕訳帳**」といいます。特殊仕訳帳を利用している帳簿組織を「**特殊仕訳帳制**」といいます。



特殊仕訳帳制では、特殊仕訳帳に関係ある取引は特殊仕訳帳に記入し、特殊仕訳帳に関係ない取引は普通仕訳帳に記入します。

特殊仕訳帳は補助記入帳を仕訳帳として利用したものであるため、単一仕訳帳制において掲げた補助記入帳が特殊仕訳帳となります。

例 … 現金出納帳、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳

（３）転記方法

今までは、仕訳帳に仕訳を行う都度、総勘定元帳の各勘定に転記するという**個別転記**（こべつてんき）を前提としていました。個別転記では手数がかかるので、手数を減らすために、**合計転記**（ごうけいてんき）が行われます。合計転記とは仕訳帳に仕訳を行った際、その都度総勘定元帳の各勘定に転記するのではなく、週末、月末といった一定期間経過後に一括して転記する方法です。

例えば、4/10 現金売上100円と、4/20 売掛金の現金回収200円という取引があった場合、個別転記では、4/10 に現金勘定の借方に100円を転記し、4/20 に現金勘定の借方に200円を転記します。合計転記では、仕訳を行った日に転記せずに、1ヶ月経過した4/30 に現金の増加合計300円を現金勘定の借方に合計転記します。

12－２　特殊仕訳帳制

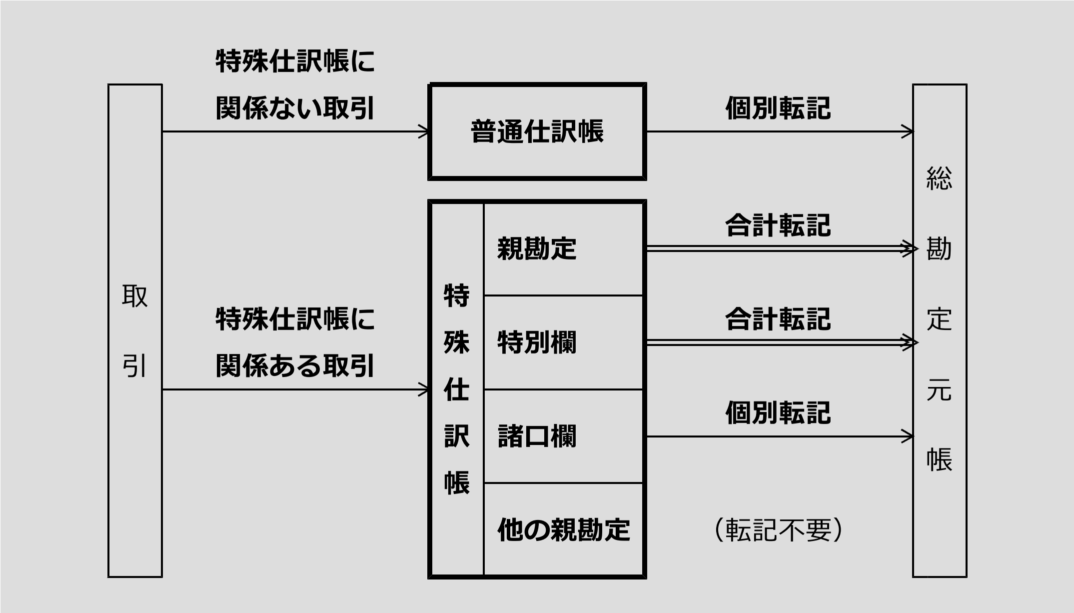
【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

特殊仕訳帳制のイメージをつけられるようにしよう！

（1）特殊仕訳帳制の理解図

特殊仕訳帳制における仕訳と転記をまとめますと、以下の図になります。



（2）仕訳帳の記入

特殊仕訳帳制では、特殊仕訳帳に関係ある取引は**特殊仕訳帳**に記入します。例えば、当座預金出納帳なら当座取引、売上帳なら売上取引、仕入帳なら仕入取引が特殊仕訳帳に関係ある取引です。

また、特殊仕訳帳に関係ない取引は**普通仕訳帳**に記入します。

（3）転記方法

① 普通仕訳帳

普通仕訳帳に記入される取引は、各勘定へ**個別転記**します。

② 特殊仕訳帳

・親勘定

特殊仕訳帳の親勘定へは**合計転記**を行います。例えば、当座預金出納帳なら当座預金勘定、売上帳なら売上勘定、仕入帳なら仕入勘定が特殊仕訳帳の親勘定です。

・相手勘定科目

１）特別欄

頻繁に使われる相手勘定科目は特別にその科目だけの金額欄を設定して、特別欄で合計金額を算定して**合計転記**します。

２）諸口欄

特別欄以外の科目は「諸口」欄に記入し、各勘定へ**個別転記**します。

３）他の特殊仕訳帳の親勘定

他の特殊仕訳帳の親勘定へは、他の特殊仕訳帳から合計転記しますので、当該特殊仕訳帳からは**転記不要**です。なお、他の特殊仕訳帳の親勘定は特別欄が設定される場合もありますし、特別欄が設定されない場合には諸口欄になります。

例えば、当座売上取引で当座預金出納帳に記入された金額は当座預金勘定へは当座預金出納帳の親勘定なので当座預金出納帳から合計転記しますが、売上勘定は売上帳の親勘定なので売上帳から合計転記しますので、当座預金出納帳から売上勘定へ転記すると二重に転記してしまうことになりますので、転記不要です。そこで、元丁欄には「✓」を記入します。

このように、同一取引を二重に転記することを回避しますので、「**二重転記の回避**」といいます。

12－３　当座預金出納帳

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座預金出納帳の記入をマスターしよう！

②　当座預金出納帳から総勘定元帳へ転記できるようになろう！

当座預金出納帳を特殊仕訳帳とした場合、「**当座預金**」勘定（資産）が親勘定となります。なお、出題実績は乏しいですが、現金出納帳が特殊仕訳帳とされる場合がありますが、その場合は、当座預金出納帳の考え方を応用して下さい。

特殊仕訳帳としての当座預金出納帳は以下の手順で記入します。

① 日付欄には、取引が行われた日を記入します。

② 勘定科目欄には、相手勘定科目を記入します。

③ 摘要欄には、取引の内容（取引先、条件など）を簡潔に記入します。

④ 元丁（もとちょう）欄には、転記先の総勘定元帳の番号（ページ数）を記入し、総勘定元帳のその番号（ページ数）へ転記が済んだことを示します。取引が行われた日に転記しない場合（特別欄の勘定科目や他の特殊仕訳帳の親勘定）は「✓」を記入します。

⑤ 金額は、特別欄を設定してある勘定科目はその欄へ、特別欄を設定していない勘定科目は「諸口」欄へ記入します。

⑥ 一定期間（例えば、１ヶ月）が経過したら締め切ります。その期間における特別欄の合計金額、当座預金の預入（増加）合計及び引出（減少）合計を記入し、それぞれの総勘定元帳へ合計転記を行います。また、借方には前期繰越を記入し、貸方には次月繰越を朱記します。これにより、借方合計金額と貸方合計金額が一致しますので、二重線（締切線）を引いて締め切ります。

以下に特殊仕訳帳としての当座預金出納帳の例を示します。なお、特殊仕訳帳として、当座預金出納帳、売上帳、仕入帳を設定しています。

当 座 預 金 出 納 帳

1

日	付	勘定科目	摘 要	元丁	売掛金	諸 口	日	付	勘定科目	摘 要	元丁	買掛金	諸 口
4	?	売掛金		✓	×××		4	?	買掛金		✓	×××	
	?	売 上		✓		×××		?	仕 入		✓		×××
	?	売掛金		✓	×××			?	買掛金		✓	×××	
	?	現 金		1		×××		?	備 品		6		×××
	30		売 掛 金	4	×××	×××		30		買 掛 金	8	×××	×××
	〃		当座預金	2		×××		〃		当座預金	2		×××
	〃		前月繰越	✓		×××		〃		次月繰越	✓		×××
						×××							×××

例題12－1　**次の取引を、特殊仕訳帳としての当座預金出納帳に記入し、総勘定元帳に転記しなさい。ただし、特殊仕訳帳は月末に締め切るものとし、他に特殊仕訳帳として、売上帳と仕入帳を用いている。なお、摘要欄の記入は不要である。**

４月２日　得意先から売掛金の決済として、3,000円が当座預金に振り込まれた。
４日　商品を売り上げ、代金2,200円は当座預金に振り込まれた。
５日　仕入先へ買掛金の決済として、900円の小切手を振り出した。
12日　商品1,300円を仕入れ、代金は小切手を振り出した。
16日　得意先から売掛金の決済として、2,500円が当座預金に振り込まれた。
19日　仕入先へ買掛金の決済として、1,600円の小切手を振り出した。
20日　現金800円を当座預金へ預け入れた。
21日　備品1,900円を購入し、代金は小切手を振り出した。

①　当座預金出納帳の記入

当 座 預 金 出 納 帳

1

日	付	勘定科目	摘 要	元丁	売掛金	諸 口	日	付	勘定科目	摘 要	元丁	買掛金	諸 口
4	2	売掛金		√	3,000		4	5	買掛金		√	900	
	4	売　上		√		2,200		12	仕　入		√		1,300
	16	売掛金		√	2,500			19	買掛金		√	1,600	
	20	現　金		1		800		21	備　品		6		1,900
	30		売 掛 金	4	5,500	5,500		30		買 掛 金	8	2,500	2,500
	〃		当座預金	2		8,500		〃		当座預金	2		5,700
	〃		前月繰越	√		1,000		〃		次月繰越	√		3,800
						9,500							9,500

4月2日　「当座預金 3,000／売 掛 金 3,000」

売掛金勘定は特別欄があるので、「売掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月4日　「当座預金 2,200／売　　上 2,200」

売上勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、売上勘定は売上帳の親勘定ですので、元丁欄には当座預金出納帳から転記しないという意味で「√」を記入します。

4月5日　「買 掛 金 900／当座預金 900」

買掛金勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月12日　「仕　　入 1,300／当座預金 1,300」
仕入勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、仕入勘定は仕入帳の親勘定ですので、元丁欄には当座預金出納帳から転記しないという意味で「√」を記入します。

4月16日　「当座預金 2,500／売 掛 金 2,500」
売掛金勘定は特別欄があるので、「売掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月19日　「買 掛 金 1,600／当座預金 1,600」
買掛金勘定は特別欄があるので、「買掛金」欄に金額を記入します。また、後で合計転記するため、元丁欄には個別転記しないという意味で「√」を記入します。

4月20日　「当座預金 800／現　　金 800」
現金勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、個別転記するため、元丁欄には現金勘定のページ数を記入します。

4月21日　「備　　品 1,900／当座預金 1,900」
備品勘定は特別欄がないので、「諸口」欄に金額を記入します。また、個別転記するため、元丁欄には備品勘定のページ数を記入します。

4月30日
1ヶ月が経過したので、特別欄の売掛金合計5,500円を売掛金勘定の貸方へ、特別欄の買掛金合計2,500円を買掛金勘定の借方へ合計転記します。また、親勘定である当座預金勘定へ増加合計（借方合計）8,500円と減少合計（貸方合計）5,700円を合計転記します。

② 総勘定元帳の記入（仕丁欄は省略しています）

現　　金　　1

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	?	4	20	当座預金出納帳	800

当座預金　　2

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	1,000	4	30	当座預金出納帳	5,700
	30	当座預金出納帳	8,500		〃	次月繰越	3,800
			9,500				9,500

売掛金　　4

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	?	4	30	当座預金出納帳	5,500

備　　品　　6

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	1	前月繰越	?				
	21	当座預金出納帳	1,900				

買掛金　　8

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
4	30	当座預金出納帳	2,500	4	1	前月繰越	?